

からうら

No. 81
2018. 8. 30発行



ちよっ娘



生比奈小学校 近藤陽礼さん



横瀬小学校 高田海秋さん

子ども議会



横瀬小学校 久米大和さん



生比奈小学校 前田花瑠さん

町を動かす子どもの声 — 2 ▶ 3

消防団員に出動手当 — 4

防災に質問が集中 — 6 ▶ 15

新鮮力! 協力隊が走る — 16

子ども議会

6/12



6月12日に「子ども議会」が開かれました。

生比奈・横瀬小学校、勝浦中学校から、町を動かす質問や具体的な提案がありました。

生比奈小学校



議長 近藤 賢太

安全・安心な通学路に

問 近藤議員 通学路の県道部分には危険なところが多くあります。用水にフタをするなどして歩道を広げ、安全な通学路にしてほしい。



近藤 陽礼 議員

答 野上町長 県道にはまだ狭いところがあり改良が必要で、デコボコな路面の舗装と

合わせて県に要望します。

勝浦の自然体験を

問 前田議員 四季折々の「勝浦自然体験」を提案します。春は登山体験、夏は勝浦川の川遊び、秋はウォークラリー、冬は勝浦マラソンです。



前田 花瑠 議員

答 野上町長 自然豊かな勝浦町で、四季を感じる体験イベントを具体化したい。

横瀬小学校



議長 寒山 航

恐竜を観光資源に

問 高田議員 恐竜の化石が発見され、勝浦町は全国的に有名になりました。「恐竜の

里」までの道路を整備し、案内板を設置してはどうか。



高田 海秋 議員

答 野上町長 「恐竜の里」までは距離が長く、道路整備は予算面で難しい。案内板は、授業等でデザインができれば、設置したい。



発見された竜脚類恐竜の化石



クロスカントリー大会を

問 久米議員 勝浦町の自然と地形を生かした「クロスカントリー大会」を実施してはどうか。



久米大和 議員

答 野上町長 「クロスカントリー」を観光体験に加えるなどバックアップしたい。

勝浦中学校



議長 米澤 菜陽

「地方創生」に政策提言

問 小林議員 過疎化による人口減少や経済停滞を打開するため、4つの提言をします。

- ①「あゆ祭り」復活を
- ②農業の後継者対策を

- ③人口問題と空き家対策を
- ④社会資本の整備

・街灯の設置を
・星谷橋の架け替えを



小林 柁介 議員

答 野上町長 ①「鮎」をテーマに観光に活かしたい。②後継者育成は、国の制度に加え、町独自の支援策で進めている。

③30年後の町の人口は、3800人を予測。空き家は150軒あり、改修事業を計画している。④街灯増設の要望も多く、危険な個所には新設したい。星谷橋の架け替えは、実現したい。

「子どもにやさしい町づくり条例」を

問 真田議員 子どもたちが過ごしやすい町にするため、条例を提案します。

- ①学校以外の場所で、悩みを気軽に相談できる集会所の

設置を。

②私たちの人権が侵害された時に、相談に乗ってもらえるサポート体制を。

③政治に対して意見を言うため、「勝浦目安箱」設置を。

④子どもが楽しく安全に遊べる施設の建設を。



真田 優 議員

答 野上町長 子どもの人権をサポートする機関の設置や、相談しやすい環境をつくる。学校などに「目安箱」を設置したい。

勝浦町は子育てに優しい予算配分となっていて、これからも「児童福祉や子育て」に配慮した行政を推進していく。

※動画および質疑詳細は勝浦町議会ホームページから



補正額2億3千万円
消防団員に出動手当

問 国清議員

出動手当での基準となる時間は、誰が判断するのか。

答 山田企画総務課長

8時間を一回とし、15000円を支給する。水防の詰所持機や火災の出動時間は、分団長が判断する。



消火活動中の消防団員

救急救命士が消防団員に

救命・救出活動の効率化を図るため、救急救命士7人が本部機動隊分団に加えられた。

粗大ごみの無料化

問 松田議員

無料化すればごみの量は増えるが、どれぐらいを想定しているのか。

答 中瀬住民課長

無料化により手数料収入が32万円減額になる。

処理料として150万円を予算化としているが、量により補正予算が必要になる。

勝浦町議会の会期決定

30年	7月(若あゆ会議)	10・24・25・26日
	8月会議	22日
	9月会議	11・12・13・25日
	10月会議	16日
	11月(みかん会議)	10月30日・11月13・14・15日
	12月会議	11日
31年	1月会議	16日
	2月会議	13日
	3月(ひな会議)	6・7・12・13・18・19・20・22日
	4月会議	23日
	5月会議	14日
	6月会議	4日

より良い町をめざし
協働のまちづくりを

町民の声 キヤッチボール

7月27日に更生保護女性会の片山佳子会長をはじめ17人の会員が参加し、日ごろの活動や町政全般の課題等について活発な意見交換ができました。

・各ボランティア団体と交流の機会を作って、それぞれの活動を共有し協働の仕組みを作れないか。



・中学校卒業時に子どもが親への感謝の気持ちを伝える一枚のハガキ通信を、14年から続け好評である。

6月会議

生産性向上に

税条例改正

「生産性向上特別措置法」に基づく支援措置を図るため、中小企業者の新たな設備投資にかかる固定資産税が3年間軽減される。

7月会議

監査委員の 選任に同意



西谷康彦氏
(今山)

教育委員会 委員の任命 に同意



市川公雄氏
(与川内)

8月会議

町民の声

恐竜化石

どうする保全と活用

問 国清議員

立川地区で相次ぎ恐竜化石が発見され、「国内最古級」と言われるポーンベツト(恐竜化石含有層)は、世界に誇れる、古代口マンであり町の宝である。

今後、どう保全し、どう活用していくのか。

答 藪下副町長

発掘は、県立博物館や化石愛好家等の協力をいただいた成果であり、今後も県と連携し保全と活用を進めたい。



「恐竜の里」に多くの子ども達が集合

議会広報常任委員会視察研修

編集に生かす

議会広報コンクールで全国1位となった埼玉県寄居町議会を視察した。住民の登場が多く、議案審議結果だけでなく、討論や質疑などを掲載することで議会活動を分かりやすく伝える紙面づくりが充実していました。



学んだことを今後の議会だよりの編集に生かしていきたい。

視察受け入れで

共に学ぶ

和歌山県白浜町議会から議会改革などの視察があり、活発な意見交換を行いながら、共に学ぶことができました。

一 般 質 問

各議員が町の執行部に対して、様々な角度から町政について質問した！
各議員の動画中継はそれぞれ掲載ページの
QRコードから見られます。

質問事項	質問議員	ページ
防災について		
災害への備え、近所に一時避難場所の確保を	森 本 守	7
災害時通学路は安全か	井 出 美智子	8
安全・安心な町に、危機迫る南海トラフ地震の確率は	国 清 一 治	9
危険家屋対策の条例を	仙 才 守	10
ブロック塀の緊急点検は	美 馬 友 子	11
防災体制の充実強化、きめ細かな情報発信を	松 田 貴 志	13
豪雨対策、堆積土砂の撤去を	麻 植 秀 樹	14
水防監視カメラの増設を	麻 植 秀 樹	14
生名谷川吐き出し口、「背割堤」の建設を	大 西 一 司	15
まちづくり		
星谷橋の架け替え計画は	国 清 一 治	9
沼江バイパス3期工事、進捗と用地交渉は	松 下 一 一	12
農地、下限面積の見直しを	松 下 一 一	12
危険度が高い、生名東橋の架け替えを	大 西 一 司	15
教育		
教育行政、勝浦中学校に部活動指導員の配置を	松 田 貴 志	13
福祉・医療		
勝浦病院の経営状態は	森 本 守	7
介護保険料の負担軽減を	井 出 美智子	8
病院改築、設計業者選定は	仙 才 守	10
産後のサポート、受診費用の助成を	美 馬 友 子	11

勝浦病院の 経営状態は



笠木病院事務局長

収支は非常に厳しい



問 病院の収支は改革プランどおりか。

答 笠木病院事務局長
病院の収支は非常に厳しく、目標どおりにいっていない。

問 新病院建設については、30年後までの支払能力を見据えた計画にするべきだ。

答 野上町長
人口減少が続いており、病院改築費用については効率的な方法により、後の負担を少なくするよう進めたい。

問 透析患者数と設備の予定は。

答 笠木病院事務局長
国保と後期高齢者保険加入者の患者数は15名いる。設備には多額の費用がかかるので難しい。

問 院外処方待ち時間は短縮されたのか。

答 笠木病院事務局長
移動で時間を要するので、大幅な短縮とはなっていない。



病院と離れている処方箋薬局

災害への備え 近所に一時避難 場所の確保を

問 今回の豪雨災害で、生存者の多くが、地域の協力体制で助かった。

タイミングを外せば避難所にも行けないので、各実行組など小さな単位で近くの安全な場所を決めておいて、一時避難してはどうか。

答 山田企画総務課長
避難所まで遠くて行けない時や緊急な場合などは、近くに安全な場所を確保しておく、そこに一時避難することは、自分を守る上で重要だ。

土嚢袋の常備を
問 7月の大雨時に役場には土嚢袋がなかった。

土嚢袋は防災の初期対応で必要な物である。緊急時にいつでも出せる管理をするべき。

答 山田企画総務課長
防災物品の管理ができておらず、申し訳ない。

常に在庫確認を行い、よく使う地域の分団にも配布しておきたい。

■こんな質問もしました

- ・福祉センターに設置の垂れ幕について
- ・県道新浜勝浦線について

災害時通学路は安全か

野上町長

子どもの安全確保に努める



一般質問



ブロック塀の点検（生比奈小学校）

問 大阪北部地震で、ブロック塀の下敷きになり女児が死亡した。同様の事故が起きないように、鳴門市では建築士資格を持つ人が安全点検を行ったが、勝浦町は調査をしたのか。

答 笹山教育委員会事務局長
ブロック塀は、教育委員会の職員が調査した。通学路は教育委員が確認をした。

問 広報等を通じて、町内のブロック塀の所有者の啓発に力を入れるべきではないか。

答 野上町長
今年の防災訓練時に、地元の人で、危険箇所調査をするなど、地域の防災力を高めていくことが大事ではないか。

問 通学路に面した、老朽家屋等の調査はしたのか。

答 松本建設課長
子どもやお年寄りなど、災害弱者を守るよう安全確保に努める。

問 21年に空き家調査を実施したが、危険な老朽家屋はしていない。

介護保険料の負担軽減を

問 介護保険料が5800円から6900円に上がり、高すぎで払えないとの声がある。救済できる制度はないのか。

また、介護保険料やサービス

料を払うと生活費が足りなくなる人への、負担軽減策は実施できないのか。

答 岡本福祉課長
負担軽減策はなく、近隣の町村でも実施していない。

問 災害、病気、失業などによる普通減免は、すべての自治体で実施されているが、低所得者減免は、県内では徳島市が実施しているだけである。ぜひ、勝浦町でも実施したらどうか。

答 野上町長
低所得者減免は、考えていく必要がある。



野上町長

■こんな質問もしました

- ・主要農作物種子法廃止について
- ・空き家をもっと利用しやすい

安全・安心な町に 危機迫る南海トラフ地震の確率は

山田企画総務課長

30年以内に70%

問 「南海トラフ地震」の発生が危惧され10数年になるが、その確率と勝浦町の被害想定は。また、発災時の初動体制は。

答 山田企画総務課長

発生確率は30年以内に70%と高くなっており、勝浦では震度6弱の地震が発生し、家屋の全壊・消失が420棟。死者数は20〜30人と想定している。

発災後、役場に駆けつけられる職員は30人弱と推測し、初動体制の訓練を実施しているが、地域の協力も必要である。

消防団組織を6分団に

問 町長は「消防団組織の再編」を公約としているが、具体的な考えは。

私は、常備化を前提に、消防組織を6分団に再編し、団員の大幅減を提唱しているがどうか。

答 野上町長

人口の大幅な減少のなか、団員定数240の維持、確保が難

しくなっている現状から、分団の統合・再編も必要となり、消防常備化とともに、今後も研究を続けていきたい。

星谷橋の架け替え計画は

問 町長は、危険な星谷橋を架け替えると明言し基金を積み立てるとしているが、その計画は



7月に通行止になった星谷橋

答 松本建設課長

架け替えに向け基金を積み立てるため計画を進めている。設

計から完成まで7年、工事費は概ね18億円を見込んでいる。



松本建設課長

防災士会に加入と助成を

問 防災士会が活発に活動を進めているが、町内の資格取得者数は。

また、防災士会への役場職員の加入促進と、活動に助成金を。

答 山田企画総務課長

現在、防災士は60数人で、その内役場職員は6人。

答 野上町長

防災士会へ職員の加入を促し、活動に対しては、財政的支援をしたい。

■こんな質問もしました

- ・産業振興のまちづくり
- ・観光・交流のまちづくり



危険家屋対策の 条例を

野上町長

条例の制定は必要



一般質問

問 倒壊の恐れがある危険家屋に対し、どのような対策をとっているのか。

答 松本建設課長

町の職務としての調査権限はないので、危険家屋の調査はしていない。

問 石井町など他の自治体では実態を調査し、具体的に対策を実施している。
なぜ調査権限がないのか。

石井町の空家対策



答 松本建設課長

他の自治体では、「空き家等対策の推進に関する特別措置法」により事業を実行している。国土交通省 空家等対策の推進に関する特別措置法



問 危険家屋が倒壊し、通行中の住民がけがをしたとき、自治体として何らかの責任はあるか。

答 山田企画総務課長

道路管理上の行政責任はある。

通行の多いところは点検が必要と考える。

条例を制定しては

問 すでに多くの自治体が空家条例を制定し、危険家屋に対応している。不適切な建築物には除去命令権がある。
本町も条例を制定しては。

答 野上町長

老朽空き家が増加しているので、条例の制定が必要だと認識している。

病院改築

設計業者選定は

問 設計業者の審査で、最優秀となった「内藤建築事務所」はどこが良かったのか。

答 石木地方創生推進室長

すべての評価項目で、他の2業者を上回る評点を獲得して選定された。

問 審査の内容は。

答 石木地方創生推進室長

設計業者の病院改築に対する



16年に完成した同規模の美波病院

考え方を確認した。今後、関係者と協議を行いながら、設計を進める。



石木地方創生推進室長

■こんな質問もしました

- ・救命士詰所の電話設備は
- ・議案のインターネット公開は
- ・光ケーブルの料金改定は

産後のサポート 受診費用の助成を

岡本福祉課長

県下の実施状況を見る



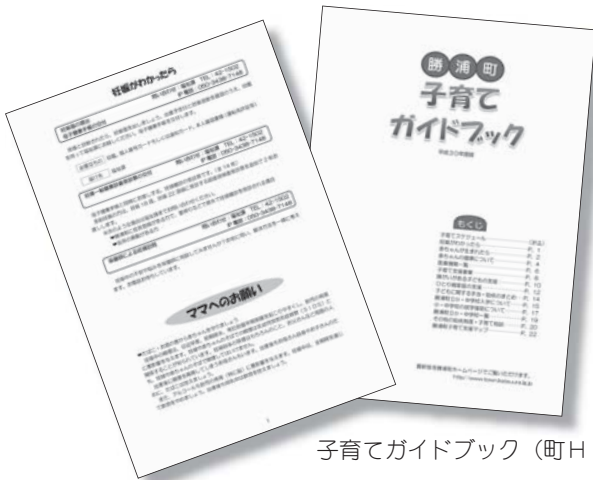
一般質問

問 出産後は精神的に不安定になりやすく、おっぱいのケアも必要な時期でもある。産後2週間目の受診を助成して母親の不安解消を。

答 岡本福祉課長

非常に大事なことであるが、保険診療の対象外で、全額自己負担となる。

今後、県下の実施状況を見ながら検討していく。



子育てガイドブック（町HP）

問 子育てに必要な情報である「勝浦町子育てガイドブック」ができ、ホームページに掲載しているが、この情報をどのように周知し活用していくのか。

答 岡本福祉課長

子育てで交流支援センターや保育園で必要な方に渡している。また、毎年改正しホームページを更新していく。

問 乳がんは自分で見つけることのできる数少ないがんである。自分自身で触れてチェックできる方法を普及させるためにも、女子トイレなどにリーフレットを貼るなどの工夫を早く。

答 岡本福祉課長

トイレの景観や利用に支障がないような方法を、協議して検討していく。

ブロック塀の 緊急点検は

■こんな質問もしました

問 大阪北部地震により、ブロック塀が倒壊し大きな被害や事

故が起きた。国や県から緊急点検の指示があったと思うが、実施した結果はどうか。

答 笹山教育委員会事務局長

地震発生の翌日に各小・中学校内の確認を行った。

また、教育委員が通学路を見回り、10箇所の報告があった。

答 山田企画総務課長

公共施設の69施設を調査し、ブロック塀を設置している13施設のうち、5施設について安全対策が必要である。

問 点検方法を周知し、自宅のブロック塀の点検のお願いをしては。

答 山田企画総務課長

所有者の自主的な点検を啓発することは必要であり、ホームページや広報にチェック方法等を掲載する。

- ・新勝浦病院の管理体制は
- ・看護サービスの質向上を

沼江バイパス3期工事 進捗と用地交渉は

野上町長

今年度から事業着手



一般質問

問 町長の沼江バイパス工事に
対する思いは。

答 野上町長

阿南市、小松島市に通じる幹
線道路であり、四国横断道につ
ながる勝浦町にとって、重要な
道路整備であると認識している。
問 土捨て場の用地交渉はどう
なっているのか。

答 松本建設課長

東側処理場の用地取得を終え、
西側処理場について交渉を続け
ている。

問 地元に対して、工事の経過
や進捗についての説明会は。

答 松本建設課長

工事着手前に説明をしたい。

問 排水対策は万全か。

答 松本建設課長

東西の残土処理場を含めた排
水流量により、排水施設の断面
積を決定する。

問 ローソン東側県道の、浸水
対策をすべきではないか。

答 松本建設課長

阿南勝浦線は、重要な道路で

あり、県道の浸水対策を県に要
望する。



早期に浸水対策を（沼江地区）

地籍調査

次の対象地区は

問 地籍調査において、次の対
象地区をどのような判断基準で
決めるのか。

答 野上町長

隣接する地区が効率的である
が、地元の協力体制が整った地
区を優先することもある。

問 地籍調査終了後、測量結果
の変更やトラブルが生じたとき
その解決方法は。

答 松本建設課長

法務局に地籍調査の成果を送
るまでに、トラブルが発生した
場合は、町で対処できる。
送付後であっても、町に誤り
がある場合は修正できる。

農地、下限面積の

見直しを

問 農地取得者の下限面積50a
の見直しを。

答 海川産業交流課長

法解釈も含め研究し、農家の
意向も確認しつつ、農業委員会
の中で検討していく。



海川産業交流課長

■こんな質問もしました

- ・ 災害防止への対策を
- ・ 町有財産の運用は

防災体制の充実強化 きめ細かな情報発信を

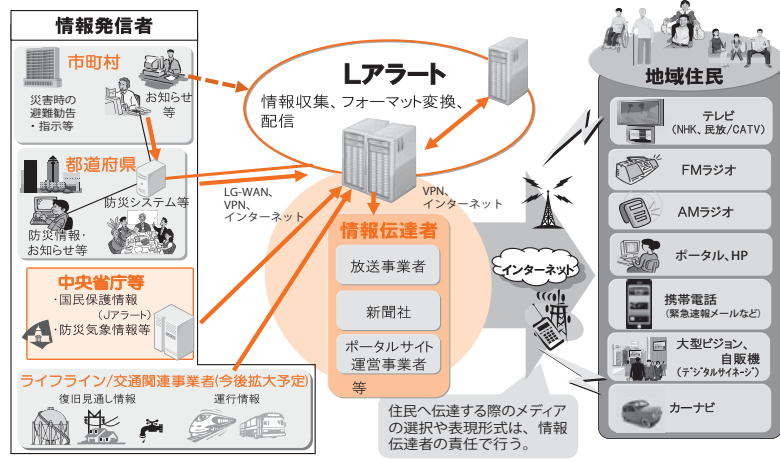
一般質問



山田企画総務課長

Lアラートの活用を検討している

答 山田企画総務課長
今回の西日本豪雨での災害対応において、多くの自治体がSNSを情報発信ツールとして活



問 災害時には情報弱者が生まれやすい。様々なツールを用いて、積極的に情報発信し共有すべきでは。

答 笹山教育委員会事務局長
教員の負担軽減、充実した部活動の推進を目的に、北島町の事例を参考に準備を進めてきた。30年10月から勝浦中学校に1名を配置できるよう、9月議会に補正予算を計上したい。

問 今年度から教員の超過勤務や負担増への対策の一環で、県の事業として、中学校に部活動指導員が配置される。本町での取り組み状況は。

教育行政 勝浦中学校に 部活動指導員の配置を

用していた。
防災無線での発信とともに、SNSの活用も検討したい。
また、Lアラート（災害情報共有システム）の運用も視野に入れながら、的確な情報発信に努めたい。

■こんな質問もしました
・定住人口増加に向けて、宅地造成や今後の展開は

答 野上町長
地方創生事業として31年度までの計画となっている。31年度の入学生は、卒業するまで何らかの形で支援したい。
今後、県による通学区制度が変更になれば、新たな支援制度も考えていく必要がある。

問 阿南方面の通学バスは、町の補助金と利用料により運行している。
中学3年生が進学先を決定するまでに一日でも早く、来年度の方針を決定する必要があるのではないか。



笹山教育委員会事務局長

豪雨対策 堆積土砂の撤去を



野上町長

県に要望している

問 西日本を中心に、豪雨による災害が発生した。行政において日ごろの防災に対する意識が十分でなかったため、人災ではと考えている。

町においては数年前にバックウォーターにより生名バイパスや公衆トイレが浸水する等の洪水が発生した。生名谷川の堆積土砂について確認しているか。

答 松本建設課長
堆積土砂は確認している。浚渫しゅんせつについては、以前より要望しているが、今後も継続していく。

問 星谷運動公園下流の堆積砂利を撤去し、川幅を拡大できないか。事前防災の観点から早急に対応するべきだ。

答 松本建設課長
県は28年度に608mを撤去している。その後、河川の流れが中央寄りになっている。

答 野上町長
2月の就任直後と5月9日に、県に対して要望した。

水防監視カメラの増設を

問 現在、町ホームページから勝浦川の水量確認ができるように、町内では星谷橋付近に水防監視カメラが1基設置されている。住民への情報提供、注意喚起を促すことを目的に、新たに坂本川と本流の交点、沼江不動前に増設できないか。

答 山田企画総務課長
星谷橋のカメラについては老朽化し、最近不具合が発生しているので補修した。増設は多額の費用が発生するので今後、検討していきたい。



山田企画総務課長



星谷橋を見張る監視カメラ

歩道整備の進捗状況は

問 生比奈小学校東側歩道整備工事の進捗状況は。

答 松本建設課長
29年度から用地交渉に入り、早期の用地買収に向け取り組んでいきたい。

危険度が高い 生名東橋の架け替えを

野上町長

2020年度着工予定



一般質問

問 「橋梁長寿命化計画」の中で生名東橋と星谷橋は最も危険で、架け替えが必要と判断されている。早期に改善計画を進めるべきだ。

答 野上町長

生名東橋は2020年度に架け替え工事を予定している。星谷橋は今年度中に「基金の設置、管理及び処分に関する条例」の制定を議会に提案し、着工をめざしたい。

生名谷川吐き出し口 「背割堤」の建設を

問 岡山県真備町で起きた災害状況は、勝浦川と生名谷川の状況と似ており、同じような災害が起こる可能性は高い。

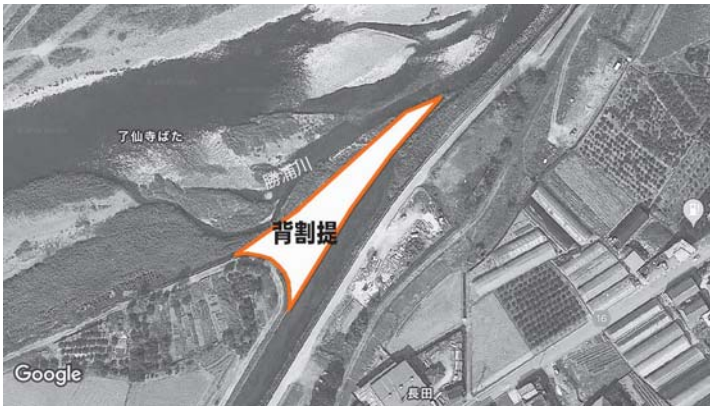
生名谷川の流れをスムーズに勝浦川へ合流させるには、排水ポンプ設置がベストだが、多額の建設費や維持管理費が必要で難しい。

現実的な方法として、合流地

点より下流へ中堤防を築き、流れをスムーズにさせる「背割堤」の建設を進めるべきだ。

答 松本建設課長

昨年、地元関係者から堆積土砂の浚渫要望と合わせて、改良計画案として「背割堤」の提案があった。引き続き県に強く要望していきたい。



地元から提案があった背割堤（勝浦川との合流点）

ふるさと納税 増額に向けた

取り組みを

問 勝浦町のふるさと納税額は近隣町村に比べて低い。寄付金の使い道を具体的に示し、勝浦町の発信や地域振興につながるふるさと納税の、増額に取り組むべきだ。

答 山田企画総務課長

勝浦の特色を感じられるよう、返礼品のメニューを工夫し、市民の協力を得ながら進めていきたい。

■こんな質問もしました

- ・ 檜渕の地滑り対策事業の進捗状況は
- ・ アグリサポート事業の取り組みは
- ・ 県道改良工事の進捗は
- ・ 教育長就任見通しは

新鮮力! 協力隊が走る

シリーズ④

「地域おこし協力隊」の活躍を、シリーズで紹介しています。今回は!

秋山 諒太 さん



★まずは自己紹介

神奈川県厚木市出身です。東京のウェブ制作会社に3年間勤め、ウェブ動画制作事業の立ち上げを行い、プロジェクトリーダーをしていました。趣味はギターの演奏とアウトドアです。



★なんでこの町へ

子どものころから「田舎に住みたい!」という気持ちと、仕事とプライベートのバランスのとれた生活の方法を探していたところ、「地域おこし協力隊」という制度を見つけて応募しました。



★どんなことしょんで

「道の駅ひなの里かつうら」に4年ほど勤務し、現在は個人事業としてホームページ制作や映像制作を行っています。

その傍ら、自分で古民家を改装して「恩送りの宿」を作っています。

★ゆめは大きく

「民宿」を軸に、小さな子供たちの夢や、地域の人たちの新しい発想を現実に変えていけるような、コミュニティを作っていきたい。

「地域おこし協力隊」とは

人口減少の著しい地方において、地域の維持・強化を図るため、都市から人材を確保し、さらに定住へとつなげる制度で、期間は3年間です。



1学期の終わりに個人懇談で小学校を訪れたとき、教室の温度計は30度を上回っていました。「集中力を切らさず学べているのだろうか」と心配になりましたが、ようやく2つの小学校も2学期から各普通教室にエアコンが設置され、すでに整備済みの中学校と合わせ快適な学習環境が整います。施設整備が進む中、残念ながら勝浦町の教育行政の舵取り役である教育長が空席のまま9月が過ぎようとしています。

未来の勝浦を担う子ども達の学習環境充実や野上町長の思いを取り入れた教育大綱策定に向け、早期の着任を望みます。(松田貴志)

編集後記

